

ひまわり



平成30年5月22日(火)

努力は裏切らない



藤井聡太さんの快進撃はまだまだ止まりません。つい先頃まで、藤井四段と呼ばれていた彼が、ついに七段に昇段しました。先日の新聞には「藤井 最年少七段 15歳9カ月 61年ぶり更新」の見出しが躍っていました。「ひふみん」こと加藤一二三（ひふみ）九段が昭和32（1957）年4月に達成した17歳3カ月の七段昇段の記録を大幅に塗り替えました。

以前、藤井さんのことを天才棋士（きし）と表した記事を読んだことがあります。天才とは「生まれつき備わっている、並み外れてすぐれた才能をもった人」と捉えたとき、彼にはそのような才能があるのかもしれない。しかし、才能は磨かなければその輝きを放つことはできません。才能を磨くとは、努力をすることです。きっと、彼は人一倍の努力をしているに違いありません。今回の偉業も、才能よりも努力によるところが大きいと思います。彼はメディアの取材に次のように答えていました。

「ここまで速いペースで昇段できるとは思っていなかった。目の前の一局一局に全力で打ち込んできたのが昇段という形で表れうれしい」

その昔、豊臣秀吉の側近（そっきん）であった黒田官兵衛（かんべえ）が、秀吉に次のような質問をしたというエピソードがあります。

「秀吉様はどのようにして天下を取り、太閤（たいこう）になることができたのですか」

すると秀吉は次のように答えます。

「足輕のときは足輕の仕事を一生命にしました。侍になってからは喜んで侍の仕事をした。関白（かんぱく）になったときには、関白としての役割を懸命に果たした。そうしているうちに太閤になれただけで、一度も太閤になろうと思ったことはなかった」と答えたそうです。実際にこのようなやりとりがあったかどうかは定かではありませんが、物事に全力で取り組むことの大切さを教えてくれるエピソードだと思います。

今昔（こんじゃく）問わず、黙々と努力を続ければ、結果は後からついてくるのです。皆さんはどのような努力をしていますか。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>